

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！				
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合		目標値 (男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%
小事業	09	みのかも健康の森活用事業			目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	みのかも健康の森は、治山事業の一環として岐阜県と共同で整備し平成7年度に開園した。森林が持つ優れた自然環境を保全するとともに、市民の保健休養、学習の場として広く市民の利用に供することと環境保全の啓発を目的とした施設である。当施設の活用が進まなければ森林が荒廃していく恐れがある。加えて、開園してから20年以上が経過しており、階段等の施設の改修や器具等の修繕が必要である。				
	事業目的	(1)対象 子育て世代、高齢者、軽登山客等  (2)目的 健全な施設運営を図ることで森林の保健・保全機能により自然保護意識の高揚を目指す。				
	事業概要	みのかも健康の森の管理運営を指定管理者へ委託し健全で安全な施設運営を推進 ・老朽化した施設の整備 ・「木育ひろば」を開設し木のおもちゃで遊べるスペースの開放、管理棟内の改修 ・整備された森林空間を活用し「健康」に焦点をおいた事業を展開 ・雨天時の来園者の確保を行うための「木工体験」等も実施				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,217	32,773	25,853	33,546	
	決算額	21,539	31,805	24,550		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	300 /			0	

アウトプット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森 施設整備延べ数(遊具含む)	目標値	6	7	7		
		実績値	7	8	9		

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森入場者数(人)	目標値	80000	81000	81500	73000	73000
		実績値	41000	49000	67000		

実績	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の森 入場者数 67,000人</li> <li>・もみじの小路改修工事実施</li> <li>・Wi-Fi修繕工事実施</li> </ul>
	効果	健康の森を利用してもらったことにより市民の自然保護意識の高揚及び教育文化の向上があった。また遊歩道の改修、Wi-Fiの修繕により、老朽化施設が改善され利用者の快適性が上がっている。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	当初に予定していた園内遊歩道の改修を行うことができた。施設整備数を延べ数で計上する必要がないため、R5年度から活動指標を整備数で表示することとした。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	コロナ禍によりバーベキュー場利用件数が少ない状況が影響し年間利用者は目標に届かなかった。 ただR3年度からは大幅に利用者が増加しており、コロナ禍の影響が少なくなってきたこと、施設を整備し利用しやすい環境を作っていることは増加につながっている要因と考えられる。  目標数値の乖離が大きいため、R5年度から目標値を年次計画書に基づく来園者数とした。
	実績からR05年度の事業の方向性	引き続き森林の保健、保全機能が発揮され、かつ市民満足の高い施設としていくためR5年度は富士山の遊歩道を整備する予定である。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち!	K P I	1人当たりの市内総生産額		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		
小事業	01	有害鳥獣捕獲対策事業		目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	野生鳥獣が住宅地付近の荒れた里山や竹林に定着し、稲、野菜、豆類等の農作の被害だけでなく、水路や農地法面なども荒らされるなど深刻な被害を発生させている。				
	事業目的	(1)対象 市猟友会及び地域住民 (2)目的 有害鳥獣被害の軽減を図り、農家の営農意欲を高め農地の保全に繋げる				
	事業概要	農林産物等への鳥獣被害防止のため、美濃加茂市猟友会へ追い払いパトロールや、罾檻、ICT技術等を活用した有害鳥獣捕獲対策業務を委託。また地域住民による有害鳥獣被害対策(電柵設置、追い払い、里山整備)を実施した経費の一部を補助する。 最近の有害鳥獣ではイノシシ、サルやアライグマ等の外来生物の被害が増加しているため鳥獣対策が急務である。 個体数調整のための鳥獣捕獲が増加することにより、駆除を委託している猟友会員へ捕獲に必要な罾檻の購入費用増加等、会員の負担軽減対策、また地域でのネット柵設置の原材料支給などを行い、地域全体で鳥獣被害対策の推進を図る。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	26,289	23,105	22,742	23,133	
	決算額	19,954	18,100	20,559		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	1,500 /		2,000		

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害防除の地域団体(団体) ・ネット柵設置 ・追い払い、整備	目標値	7	8	9	9
		実績値	14	15	19	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額(千円)	目標値	28000	25000	20000	19000
		実績値	22000	20100	19920	

実 績	実績	・有害鳥獣捕獲数 イノシシ 131頭 サル 4頭 シカ 22頭 アライグマ等 42頭  ・鳥獣被害防止対策補助金交付実績 電気又は防護柵設置 22件 追い払い機材等購入 1件 里山林整備 12件
	効果	有害鳥獣を数多く捕獲したことで農地等の被害の軽減をすることが出来たため、農地の保全がされた。 また、市猟友会への補助等を行うことで会員の負担軽減となった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	国営市の有害鳥獣対策における補助金を多く活用することにより有害鳥獣被害防除地域団体を増やすことが出来ている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	有害鳥獣被害防除における地域団体が増えていること、各種対策を継続していることで有害鳥獣被害額は減少している。
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度から開始される美濃加茂市鳥獣被害防止計画に沿って有害鳥獣被害額が減少するよう引き続き各種対策を講じていく。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		50.0%
小事業	02	里山活用事業		目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。そのため市では放置竹林の伐採や破砕、植樹などの里山整備を実施している。整備された里山には魅力的な資源や空間があるため、里山の有効活用が求められている。				
	事業目的	(1)対象 美濃加茂市内の里山林及びぎふ清流里山公園未利用地 (2)目的 森林整備により本来の里山を取り戻す、さまざまな里山再生事業を行い地域産業活性のモデル地区とする				
	事業概要	「里山千年構想」に基いた「里山千年基本計画」の実施に向け、「里山整備」「里山活用」「資源活用」を柱に里山再生を実施する。里山整備後の森林空間活用や地域連携、地域住民による維持管理意識付けに併せ、モデル地区として発信する。整備後の市内全体の里山林をフィールドとして企業との連携を通じた里山整備を推進するため「地域貢献の整備」と「社員の健康」を合わせた事業計画を策定し企業への働きかけを図る。森林経営計画策定等を実施することで、里山にある資源や空間を有効活用し持続可能な里山整備を推進をめざす。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	23,839	26,979	16,575	15,515	
	決算額	22,145	23,890	14,534		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	4,800 /			0	

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備講座の参加者(人/年)	目標値	140	150	150	80
		実績値	36	66	155	

アウトカム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備ボランティア活動のべ整備面積(ha)	目標値	0.9	1.2	1.5	1.6
		実績値	0.9	1.2	1.5	

実績	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山整備ボランティア活動のべ整備面積 1.5ha(里山整備体験講座)</li> <li>木育スタート事業(木の器作成)400個</li> <li>森林空間利用創出委託業務実施</li> <li>アベマキ学校机プロジェクト実施 3校</li> <li>里山千年構想推進補助金</li> <li>薪ストーブ等購入補助事業 3件</li> <li>里山資源活用団体補助事業 7件</li> <li>ヤギ除草のための間伐材柵設置補助事業 2件</li> <li>木のおもちゃ購入補助事業 2件</li> </ul>
	効果	里山整備が進んだことで山林の荒廃を防いでいる。また、里山整備講座により里山整備に関わる人数が増加し里山整備につながっている。里山を活用したものづくり、子供を対象にした「森のようちえん」等の学習により、資源の有効活用、こどもの自然意識の向上にも役立った。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	広く参加を呼び掛けることにより、里山整備講座に多くの参加者が集まったことで目標値を達成できている。R5年度から半年ごとの参加者数を的確に把握するため、当該年度の参加者数を目標数値とする。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	里山整備講座に参加する人が増え、里山整備に対する知識や意識が向上し関係者の増加したことにより、整備面積も増加し目標値を達成することができた。
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度から「森のようちえん」を職員で実施するのではなく専門的な知識を持っている外部へ委託する予定である。その他は引き続き取り組みが展開できるよう既存の事業を継続していく。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と「豊かさ」あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標年度	令和6年度	
小事業	03	里山再生プロジェクト事業（定住）					

インプット	事業実施の背景にある課題	圏域内の荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。美濃加茂市では平成27年度から近隣自治体や地域住民と連携し、放置竹林の伐採や破砕、植樹などの里山整備を実施している。これらの整備が継続されることで圏域内の有害鳥獣被害額（主な原因のイノシシによる）が平成26年度より55%減少しているが、未だ令和元年度の被害額が30,000千円以上と高額であるため、今後も引き続き計画的な整備と地域住民による維持管理が必要である。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 圏域住民、圏域内の里山 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） 「圏域住民（子どもから大人まで）」が当たり前のように圏域内の里山の整備・活用を持続的に実施される。 圏域内の里山が持続的に整備され、有害鳥獣被害が減少する。				
	事業概要	有害鳥獣被害の原因である里山の荒廃に対して、各市町村で実施している森林環境税による里山林整備の補完的な事業を中心として、計画的な里山整備をする。地域住民による里山の維持管理を進めるとともに、里山が再び荒廃しないよう、一過性ではなく、自立（持続的）した活動にする必要があるため、里山の有効活用の取り組みや研究を進めていく。また、これらの活動にさまざまな人たちが関わることで、それぞれの「生きがい」や里山への「愛着」を生み出し、持続的な活動を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	20,000	25,000	25,000	25,000	
	決算額	19,910	24,999	24,999		
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	320 /			0	

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	圏域内整備のべ面積（ha） <伐採及び破砕処理>	目標値	25	30	35	60
		実績値	30	39	50	

アウトカム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	圏域有害鳥獣被害額数	目標値	32000	31000	30000	
		実績値	29000	26861	25525	

実績	実績	里山再生整備事業として、美濃加茂市6.8ha+145m、坂祝町0.18ha+745m、富加1.5ha、川辺町2.46ha、七宗町0.46haの計11.4ha+890mを実施した。
	効果	連携市町有害鳥獣被害額の合計が、令和3年度（26,861千円）から令和4年度（25,525千円）で4.97%軽減された。事業実施前の平成26年（67,347千円）と比較しても62.09%軽減した。施業箇所付近の住民の森林整備に対する意識は高まり、自治会等の団体で維持管理の活動が行われている。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	重機借上げ等を連携市町で共有することで費用負担が軽減された。また、本事業の根幹となる森林環境税の里山林整備（バッファゾーン整備等）に連携市町が積極的に取り組んできた結果、昨年度の整備面積に対し約1.28倍増加した面積が実施できた。
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	森林環境税の対象外である竹の破砕（処分）を本事業で補うことによって、事後の整備が刈払機等で容易に行えるようになった。また、継続して本事業を行うことで、地域住民の関心も高まり、参加団体が増える結果となった。なお、連携市町有害鳥獣被害額についても昨年度より4.97%減額された。当市総合政策会議にて本事業が人材育成に係る指標として分かりづらいとの指摘を受け、行政の投資及び整備に対して、その後地域が自主的に整備をしているかを把握するための指標とした。
	実績からR05年度の事業の方向性	森林環境税の里山林整備が拡大して進む中で、事後の整備が地域住民等によって容易に行えるよう、竹破砕の実施箇所については地域性を鑑みて選定する。また、有害鳥獣被害の軽減のためには一体的かつ継続した里山整備が必要と考えるため、引き続き本事業によって整備を行っていく。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	01 農業費	03 農業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標年度	令和6年度	
小事業	04	ふるさと農産物育成事業					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	農業人口が減少する中、農業者には安定した経営が不可欠である。しかし、農産物の販路が少ない場合は災害等により突如として販路を失い、経営難に陥るリスクがある。そのため、販路を確保しリスクを分散させる必要がある。また、市の特産品としての農産物は、美濃加茂市を認知してもらう機会として求められている。				
	事業目的	(1)対象 特産農産物の生産者 (2)目的 親苗代の一部補助、里山と共存した農業の研究を行い、農業者の負担軽減や販路拡大により経営の安定を図るとともに特産品の安定供給を行い産地の振興を図る				
	事業概要	産地としての振興を図るため、国内外における販売促進活動等を実施する。また里山と共存した農業を研究し持続可能で高付加価値の農作物の推進を図る。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,792	3,818	3,018	1,218	
	決算額	3,201	2,510	753		
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	560 /			0	

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	調査及び生産者と協議(回)	目標値		2	2	2
		実績値		4		

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	市のブランドとなる農産物の発掘(品)	目標値		1	1	1
		実績値		2		

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産農産物の販路拡大</li> <li>・市ECサイトでの農産物販売</li> <li>・ふるさと納税返礼品への登録</li> <li>・シャインマスカット(東濃園)</li> <li>・トマトジュース(アズファーム)</li> <li>・堂上蜂屋柿関連負担金 550千円</li> <li>・山之上梨関連補助金 144千円</li> </ul>
	効果	認定農業者の中から二人(2品)の農産物を市のふるさと納税の返礼品として登録して市の特産品として全国の人の目に触れる対象とすることができた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	生産者にふるさと納税の返礼品として登録してもらおう4回の協議を行った。生産者との協議を重ねるほど登録が増加すると考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	生産者との協議を4回行うことができたため、ふるさと納税の返礼品として二人(2品)の農産物を登録できた。今後も多くの協議を行う必要がある。
	実績からR05年度の 事業の方向性	引き続き、認定農業者に農産物をふるさと納税の返礼品として登録してもらえるよう協議を重ねる。登録により全国の人の目に市の特産品が触れるように販路の拡大を支援していく。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	01 農業費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	KPI	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山	目標値	4,100千円 50.0%	
小事業	05	水田農業構造改革市町村推進事業		目標年度	令和6年度	

インプット	事業実施の背景にある課題	近年、食料自給率の低下と共にめん類やパンなど、米以外の主食が増えて、米を食べる量が減ってきている実状がある。米が余ると農家が売れる時の米の値段が下がらず、農家の収入が減ってしまう恐れがある。また、生物による水稲被害が問題となっており、被害を軽減する必要がある。				
	事業目的	(1)対象 水田農業者 (2)目的 一定規模以上の転作を行った対象者に交付金を交付し、水稲の需給調整と水田活用による他作物への転換を図り食料自給率の向上を目指すとともに、水稲被害の防除の推進を図る				
	事業概要	経営所得安定対策事業による米の需給調整の円滑な推進を行い、稲作及び水田を活用した他の作物への転換を組み合わせ生産性の高い水田経営を図り食料自給率の向上を推進する。 近年水稲被害の課題となっているジャンボタニシの駆除等を実施し被害の軽減を図る。 また、各地区における集落座談会等の開催及び営農促進、需給調整の推進を農事改良組合に委託する。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,452	10,587	10,609	10,246	
	決算額	10,030	10,106	9,487		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	650 /			50	

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	各地区における米の需要調整および転作の広報活動件数(回)	目標値		2	2	2
		実績値		2		

アウトカム	KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	全体転作面積(ha) 休耕や農業用施設などは除く 市内農家の出作面積を含む	目標値		118.5	119	119.5
		実績値		100		

実績	実績	集積利用交付金対象作物作付面積 8件 773,255㎡ ジャンボタニシ薬剤購入数 146個 防除協力人数 45人 ジャンボタニシバトリール駆除作業委託 621千円
	効果	転作を進めたことで水稲の需給調整を行うことができた。また、ジャンボタニシを駆除したことにより、水稲被害を軽減することとなった。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	営農計画書を提出した際、計画変更の確認の際に2回の広報活動を農業者に行うことが出来た。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	転作に関する広報活動を行ったことで全体の転作面積は増えていると考えられる。しかし、目標値に届かなかった理由として農業者に転作可能な地理的条件が合う土地が少なかったこと、転作による経済的なリスクがあったことが考えられる。
	実績からR05年度の事業の方向性	引き続き転作を進めることによって主食用米と転作物との需給調整を行い、農業者の経営の安定を図っていく。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち!	K P I	1人当たりの市内総生産額		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		50.0%
小事業	06	里山整備事業		目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	適切に管理されない森林が増加しているため、水源のかん養、山地災害の防止など森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。また、荒れた里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加してしまう恐れがある。				
	事業目的	(1)対象 市内の一団の民有林 (2)目的 森林を計画的に間伐することで森林の公益的機能(山地災害、水源涵養など)確保に努める。 森林整備を進めることで有害鳥獣被害の軽減を図る。				
	事業概要	地域住民の森林に対する要請も、鳥獣を含めた生態系の保全、地球温暖化の防止など、広範に多様化かつ高度化しつつあることから、市では「里山千年構想」を策定し関係機関及び企業との連携を推進している。 ・里山整備を効率的に実施するため、施業の集約化を推進する。 ・岐阜県森林環境税を活用した里山林整備の推進、国の森林環境譲与税の有効的な活用 ・広葉樹を含めた森林経営計画を策定し、持続可能な里山整備を行う。 ・企業との連携整備、森林経営計画策定による持続可能な森林管理を行う。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	76,103	63,404	69,227	25,776	
	決算額	72,651	58,022	20,803		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	5,000 /		0		

アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備のべ面積(ha)	目標値	250	300	340	360	400
		実績値	251	302	397		

アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額(千円)	目標値	28000	25000	20000	19000	18000
		実績値	22000	20000	19920		

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山整備面積</li> <li>環境保全林整備事業 83.02ha</li> <li>里山林整備事業 12.30ha</li> <li>ぎふ清流里山公園整備</li> <li>自伐林家型森林整備補助 1件</li> <li>森林整備地域活動支援交付金 1件</li> </ul>
	効果	里山整備が進んだことで森林の公益的機能が発揮され、適切な森林が維持されている。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	県補助金等を活用し効果的に里山整備が実行されていることで整備面積は目標値を上回っていると考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	里山整備が順調に進んだことにより、森林の荒廃を防ぎ有害鳥獣が少なくなったことで有害鳥獣被害額が減少していると考えられる。
	実績からR05年度の事業の方向性	R5年度も引き続き里山整備事業を継続していくことで森林の公益的機能を確保する。

# 令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と「豊かさ」あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標年度	令和6年度	
小事業	07	里育事業（定住）					

インプット	事業実施の背景にある課題	圏域の里山の荒廃による有害鳥獣対策として、みのかも定住自立圏第2次共生ビジョンから「里山再生プロジェクト事業」を実施。美濃加茂市、七宗町と連携し、放置竹林の伐採、破碎の整備を実施している。また、地域住民の中から整備隊を発足して維持管理する団体が動き始めた。行政や地域住民による整備が継続されていることが、圏域内の有害鳥獣被害額（主な原因のイノシシによる）の減少の要因（平成26年度より約55%減少している）の一つと考えられる。今後も持続的な整備及び維持管理には里山資源の有効活用が必要となるが、それには、多くの圏域住民に整備や資源の有効活用に関わってもらいながら、里山に関わる担い手（圏域住民）作っていかねばいけない。				
	事業目的	(1)対象（誰・何） 圏域住民  (2)目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） 里山の持続的な整備及び維持管理には、そこに関わる人材が必要不可欠であることから、里山整備や資源の有効活用を圏域住民と関わりを持ちながら進めることで、圏域住民が自分たちの手で里山を守るという自信や誇りを生み、それが、圏域の里山への愛着を育み、里山に関わる担い手へとつなげていく。				
	事業概要	里山資源の新たな有効活用方法として、七宗町の耕作放棄地茶園を整備して出たお茶の木と、製造過程に必要な燃料に圏域住民や公共事業で行う里山整備から生まれる「薪」を使用して、里山生まれの番茶（三年晩茶）の製造・研究を圏域住民や民間を中心に組みむとともに、圏域内の学校や企業、飲食店を中心に活用（消費・販売）を進め、お茶を飲むことが里山を守っているという考えを定着させていく。また、子ども（児童生徒）を対象に里山に関する授業や、広く圏域住民にこれらの活動を知ってもらい、圏域の里山に愛着を持ってもらうために、地域のイベントなどで、里山に関するワークショップを実施。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額		8,777	4,618		
	決算額		8,178	4,609		
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	300 /		0		

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	学校での里山授業や周知イベントの実施回数	目標値	3	4		
		実績値	3	5		

アウトカム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	事業に実施に伴って生まれる関係人数（イベント参加者数や担い手の人数など）	目標値	200	300		
		実績値	100	1870		

実績	実績	6/30 七宗町内において三年番茶（1袋6パック）を全戸配布し、周知及びアンケート調査を実施（1500世帯） 6/21、7/4 NEXCO中日本の社員10名に対しても周知及びアンケート調査を実施（10名） 9/10 市内のイベント（バレー教室）時に企業及び学生に対し、周知及び試供品配布（140名） 10/15 環境フェア、企業林イベントで三年番茶づくり体験の出店と周知を行った（150名） 11/26 市内のイベント時に都市部の企業社員に対して、周知及び試供品配布（70名）
	効果	圏域内外と、新型コロナウイルス感染症によってイベント等に制限がかかる中、感染防止対策を取りながら体験、PRイベントを行った。番茶の取り組みについて、ワークショップを通して参加者へ紹介することで、効果的にPRすることができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	イベント等においては新型コロナウイルス感染症の対策が必要の中、十分感染症対策に留意したうえで目標値以上の5回実施できた。しかしながら、対象者について、事業の目的との合理性が不十分であったと考える。
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	新型コロナウイルス感染症等の対応のため、多人数を対象とした授業やイベント等を実施できなかった。また、担い手等の関係人数についてもイベント等の参加者から波及させることができなかった。
	実績からR05年度の事業の方向性	定住圏域だけでなく、圏域外に対しても周知を実施することができた。また、これまでの活動実績をとおして、三年番茶を作成（焙煎）する機材及び人材、技術が七宗町内において目途がたった。本事業における目的が令和4年度中に達成されたため、令和5年度からは当事業を実施しない。